

2019年度 学校自己評価表

中長期目標(学校ビジョン)
<p>1. 鳥取県内有数の進学校としての地位の確立</p> <p>①国公立大学・難関私大現役合格率6割以上確保 (5年以内に東大合格者を出す)</p> <p>②進研模試、校外模試において学年平均偏差値60以上確保 (偏差値70以上の生徒3名以上)</p> <p>2. 「学力面で優れた生徒＝人格的にも優れた生徒」 という湯梨浜学園の生徒像確立</p> <p>【目指す生徒像】</p> <p>①自ら考え、自ら行動できる生徒</p> <p>②他を思いやり、受け入れることのできる生徒</p> <p>③支え合い、共に成長できる生徒</p> <p>④夢の実現に向けて努力する生徒</p>

今年度の重点目標
<p>1. 学習指導の充実と進路指導の強化</p> <p>◇国公立・難関私大合格15名以上を目指す。うち、国公立準難関大学以上合格5名以上、並びに国立難関大+国公立医学科3名以上合格を目指す。</p> <p>◇中学部各学年、学力推移における各教科及び3教科総合全国偏差値平均を4月（中1英は10月）の学力推移を基準として5ポイントアップ、偏差値平均50以上、偏差値60以上3名以上の実現。高校部各学年、校外模試における各教科及び総合全国偏差値平均を7月の進研模試を基準として3ポイントアップの実現と維持。</p> <p>2. 学校運営の充実と教育環境の整備</p> <p>◇各分掌の活動を充実させ、PTAとの連携、地域との交流を図りながら、校務が機能的に運営されることを目指す。</p> <p>◇学校通信、学級通信など各種広報紙の定期的発行、HPやFBなどの情報提供迅速化、頻繁な更新に努める。</p> <p>3. 生徒指導の徹底と教育相談の充実</p> <p>◇「あいさつ」「返事」「掃除」「服装」を指導の4つの柱に据え、規範意識を高めて、社会に必要とされる人間形成に努める。</p> <p>◇適宜個別面談などを通し、生徒理解に努め、教育相談、スクールカウンセラーとの連携で悩みの解決や相談にあたる。</p> <p>4. 人権教育の推進</p> <p>◇あらゆる場面、あらゆる教科で、すべての先生が人権教育視点に立った教育を行う。</p> <p>◇校内・校外での研修に意欲的に参加する。</p>

評価は S(達成) A(ほぼ達成) B(あと一歩) C(未達成) です。

評価項目	具体的項目	中間評価	達成状況(年度末)と次年度の課題	評価
1. 学習指導の充実と進路指導の強化	教務力の向上(授業改善、授業研修)	A	大学入試、高校入試問題を活用した専門科目職員試験を実施し、課題発見と自己研鑽を促した。授業研修は各教科1回ずつ実施したが、後半参加者が減った。授業見学とシート入力は徐々に軌道に乗ってきたが、見学回数には個人差がかなりある。	A
	国公立・難関私大合格15名以上		鳥取大(医)、岡山大、鳥取大、島根大、高知工科大、北里大(獣医)、明海大(歯)、同志社大、立命館大、摂南大(薬)、防衛大学校など、国公立・難関私大合格16名。医学科4年連続達成。	A
	校外模試における数値目標達成	B	高1国語、高2文系理科、高1英語など、一定の成果を出した教科・科目、学年もあるが、全体としては数値目標達成には至らなかった。センターの結果も思うように伸ばしきれなかった。高2までの段階で力をつけさせておく必要がある。	B
2. 学校運営の充実と教育環境の整備	各分掌活動の充実、PTAとの連携、地域との交流を図る	A	各分掌活動は順調になされ、新しい取り組みも軌道に乗りつつある。分掌の横の連携を取り、負担感の差を埋める必要がある。PTAとの連携、地域との交流は、内容の課題はあるものの、形になりつつある。	A
	HP、FB、学級通信などでの積極的情報提供	A	FBの立ち上げと定期的な更新はできたが、運営方法と掲載内容についての課題もみつかった。HPは一部の先生に負担がのしかかった。学級通信はクラスによって頻度に差があるものの、定期的な発行はできた。	A
3. 生活指導の徹底と教育相談の充実	生徒指導の4つの柱を、教職員間でのブレなく徹底する	B	挨拶については年度後半になるに連れてよくなっていった。返事、服装に対する指導に関して、教員間で差が見うけられる。掃除の質的向上が課題である。	A
	生徒との教育相談の機会を充実させ、自己肯定感を醸成する	B	担任・副担任にこだわらず、話しやすい教員が臨機応変に対応できている。SCが教室での生徒の様子をみる機会を設けることもできた。自己肯定感の醸成には引き続き努力を要する。	A
4. 人権教育の推進	学校生活でのあらゆる場面で、人権教育的視点にたつ	B	先輩、教員に対する言葉遣いや態度は、より一層の指導が必要である。授業中における教員の不適切な言動の根絶が課題である。生徒への人権教育の質的改善も課題である。	B
	校内・校外での研修に意欲的に参加する	B	校内での人権教育研修は、実施できたものの、校外研修は教職員の参加率が低かった。	B